

安芸クイーン(あきクイーン)

登録番号：第3458号

登録年月日：平成5年3月17日

登録者：農林水産省果樹試験場
(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：山根弘康 栗原昭夫
山田昌彦 永田賢嗣

吉永勝一 松本亮司

岸 光夫 小沢俊治

角 利昭 平林利郎

角谷真奈美 佐藤明彦

来歴：「巨峰」の自殖実生

特 性

■栽培特性

樹勢は強く、新梢の伸びは旺盛、樹冠の広がり「巨峰」と同程度である。熟梢の色は暗褐色で、登熟は容易。開花期は中位で「巨峰」と同時期である。熟期は育成地では8月下旬であり、「巨峰」と同じかやや早い。

樹性は「巨峰」とよく似ており、整枝・せん定など枝梢管理と肥培管理は「巨峰」と同様に行えばよい。短梢せん定も可能である。花振るい性が強く、有核果粒がつきにくく無核粒が多いので、ジベレリン処理によって結実安定と無核化を図るのがよい。ジベレリン処理法については検討中であるが、10~15ppm液の2回処理（1回目は満開時、2回目は満開10日後）によって果粒肥大はやや劣るものの、着色の良い果房が得られる。25ppm液の2回処理では穂軸の硬化が著しく、着色が不十分となりやすい。ジベレリン処理樹では樹勢をやや強めに維持するとともに、花穂の整形を十分に行い、300~350gの密着房を作るようにする。花穂の整形は「ピオーネ」と同様に行い、先端部の3~4cmを使う。ジベレリン処理果では開花後花冠の落ちにくい性質があり、この花冠痕にサビを生じやすく、成熟期にサビの部分から裂果する場合がありますので、サビ防止法を検討する必要があります。

着色性は「紅瑞宝」と似ており、大房や結果過多、枝梢の過繁茂により着色不良となりやすい。結果調節を十分にし、枝梢の過繁茂を避けて棚下を明るく維持することが大切である。果房は350g程度までに抑え、着果量は黒色系大粒ブドウよりも少なくする。強い枝でも1結果枝1果房とし弱い枝には結果させない。10a当たりの目標収量を1,200kg、平均果房重を300gとすると、10a当たり4,000房程度(13~14/3.3㎡房)着房させることになる。

■果実特性

自然状態の果房は有岐円錐形で、無核果粒の多い粗着房である。果粒は倒卵形で、平均13gの大きさで、果皮色は鮮紅であるが、赤色ブドウの着色条件のよい地域では赤紫色まで進むことがある。はく皮性は中位で「巨峰」よりも果皮がはがれにくい。果肉特性は崩壊性と塊状の間である。果汁の糖度は18~20%で「巨峰」よりもやや高く、酸含量は0.4%程度で、狐臭があり、食味は優れている。果皮は厚いほうであるが、裂果性が少しある。常温での日持ちは短いですが、冷蔵すれば2~3カ月間品質を保持する。

■病虫害抵抗性

病害抵抗性は中位で、晚腐病にやや弱いほかは「巨峰」と同程度である。病害虫防除は「巨峰」に準じるが、晚腐病の発生を抑えるために予防散布を行うとともに、摘粒後できるだけ早く袋かけを行う。

■地域適応性

耐寒性は「巨峰」程度とみられるので、凍害の恐れのない東北地方中部から九州までのブドウ栽培地域に適する。樹性も「巨峰」と類似しているため、栽培適地は「巨峰」の栽培地域と一致すると思われる。
(山根弘康)